



| | |
|------------------|---|
| Title | 都市社会学 : 昭和28年度特殊講義案 第5巻 第4号 |
| Author(s) | 鈴木, 栄太郎 |
| Issue Date | 1953 |
| Doc URL | http://hdl.handle.net/2115/77401 |
| Type | manuscript |
| Note | 東洋大学社会学部大学院社会学研究科講義案。都市の社会的統一性の問題 |
| File Information | N011_01S28.pdf |



[Instructions for use](#)

NOTE BOOK

Made of paper
Specially prepared in nippon

都市社會學

二十八年度

特殊講義案

第五卷

第四卷

都市の社会的統一の問題



¥30.00

NISSHO

文華ノ一 A 3

才四章 都市の社会的統一性の問題

1. 都市の空間的形態

2. 二城壁

3. 五原の地形と交通の特色

4. 都市の外部輪郭

5. 行政的地

6. 職業による特徴

7. 地價による都市の範囲

8. 密集生活体としての都市

9. 住居と職場

10. 都市の散在と其の集約化

(生活場同質性の都市)

以下イトオ五巻

この七はオに加ふ

この八は五に加ふ

第四章

都市の社会的

統一性の問題

本章における諸問題

1. 都市の空間的形態

実証的研究の期を以てしてこれを決定するに依る也

(2)

都市の社会構造

都市の社会構造の中心を以てしてその社会構造の一般性を論ずるに依る也

都市の社会構造の中心を以てしてその社会構造の一般性を論ずるに依る也

都市の社会構造の中心を以てしてその社会構造の一般性を論ずるに依る也

(3)

都市の地域

都市の社会構造の中心を以てしてその社会構造の一般性を論ずるに依る也

都市の社会構造の中心を以てしてその社会構造の一般性を論ずるに依る也

2 4. 城廓土

3 5. 点状形態の空間的独立

6 人の密交

7 郊外部

8 都市の外輪

交通の便による連綿したる指室区
居住供給圏 青物給湯地区

8 9 同居生活体 集合生活体
共同生活体としての都市の層

5 10 行政的地區 相互依存地区

11 相互制約圏、都市民の残存を
残さない。打撃への対応

(9) 12 集團の接近による配域

| | | | | |
|------------|--------------|-----------|----------------------|------------|
| 10 | 9 | 7 | 6 | |
| | 16 | 15 | 14 | (13) |
| 都市の概念と区域系化 | 住民と職場 | 地価に及ぶ都市区域 | 職場による都市 北中付時に高賃賃勢 | 地区集団の連続的統一 |

郊外と母体都市の境界は、
郊外の自存性他の位置地への自存性

奥井氏
P.386

第一節

① 都市の空間的形態の問題

都市の空間的形態と

都市は本来、社会的存在以上のものがある。

それは都市に於ける社会的存在の部面を

を抽出して看入るにはあるが、社会的存在の部

面として見ると思ふべき限りに於いて他の部面を考

慮するに及ぶ。都市の空間的形態を

社会的存在と云ふもそれは思ふべき限りに

他人の意識内部の予備であらう。主観的

存在の存在による社会的存在を通過し

て存在して居るに過ぎない。都市の空間的社

会生活も互いに何かの社会的な存在を造り

出す中を判讀し合ふことによる大過なく

意識の内

過して居るのであるが、料金の世帯は同一

手段 得る 市地を適回し 大連市を以て 是れ

的行政を遂へ人の動きを 指 断し、是れ

的税率の中に法則を足かし、これを心の動き

に於て、法則と辭す のである。 不合理的は存在

都市を、實際的に規定する場合には、都市

の範囲が 「具象的」 地図の上には、さうと境界線が明示

され 「像」 ば、其れの規定は境界線によつて

如何に多く、便宜をうけようとするか。又此境

界線が規定され、片を同一には都市の實際的

規定は 「都市」 確と 「都市」 知能に 「都市」 あり。

都市は果して此等の統一性をもち、その

日本の政治的表現の統一
統一の統一

の二ありうか。もししその統一は土地の上の影

しねの存在の統一ありうか。本来此の

子室としてかくの如き統一ありうか。

都市は果敢的に其の範囲を決定し得るも

の二はたかく都市の定型的決定は新を本方

能^{たゞし}なり。新法を考へし其の如きものなり。

今々我々のいふに何れも又は何れ町と云ふ

場合の互の行政的区域はは、交うとして居る。

然し此区域は都市の範囲を定むるものである。

よは^既なりかである。近來行政的区域を拡大

し附近の町村を合併して市の領域を拡張

するものありしに於ては、何れも市の境界

村は勿論山村や漢村を包含して居る。

しかし面白い。これ等の山村や漢村は行政

上市の区域に纏ひ下されたりして、是れが

之の要、都市になつたのである。他共に

任になつて居る。

行政上の市や町は必ずしも都市ではなへぬ

私達の作務に於ては、勿論町下を市

外都市であるに非ず。

人の稠密さの多い集落とか非農的職

業人の多い村とかが都市と云ふ語の意

味するものに違つた。これは、たしかに

我々の経験する都市には至らざるが、

場合が多い

し、片と様である。然し、ゆゑに又、
ない。

米、私々、経験上、懐い、
都市の概念を

日本の用語に用い、
都市の

語の収容である。私には、
都市の

と云ふ語を、
都市の

場合には、
都市の

概念を、
都市の

としての、
都市の

を、
都市の

い、
都市の

凡そ、
都市の

しとくふふふい。と水等の外にこの同様のもの

が書かれたものがある。日常語の意味が下とこ

ろを交るに分別し教へられたとしても水又はは料を

的用語としては不適合である。日常語の意味

に一應注意す。事は望ましいものである。料を

用語は新しく規定し直すべきにせよ。

都、平とよ語は日常語としてその意は明かす。

ところは少し立ち上って考へてその明確な

はなつ。知し不知識な比日常語の意は明かす。

ところを左に記す。ついでに考へておしめし

奥の奥に續報があるが、確かな概念か

と、戸ととよかたをいってはおか。未だ不



⑤ 貞井氏に行政上の都市に對して
實際としての都市を区別して
法令を定むるの区別を認めよ。

④ 東京の定本、地誌を定むる定本
地理学上の定本の内には都市の地理を
定むるの定本を定むる必要あり
都市の地理学を定むる定本を定むる必要あり

③ 私語は日常語としての都市の概念に促はれ
てはなかりしと、是れが都市の統一性を行
政上の市の外に都市のものを示す可きもの
を認めよ。都市の概念は農村や山村との同
じ区別ありしと認めよ。又故郷の自給
都市に独立性を一概を認めよ。又自給
である。

② 東京や地誌を定むる都市の定本は都市
の独立性を一概はどんなに取捨せよか。

① 明確な日常語は是れ又のよて是れ以上の
何よりとなく是れを是れとして通用する
よ。日常の生活である。都市は都市として
全く形として概念定まらなからぬ。

② 日常語の意味を定むる必要あり。是の内には
都市の定本を定むる必要あり。是の内には
都市の定本を定むる必要あり。

③ 何の市の区域内にある。山打や漢村の部
分は都市ではない。市の区域とは別に都市
の区域がある。行政上の市や町とは別
に都市がある。日常語としての
都市の定本を定むる必要あり。是の内には
都市の定本を定むる必要あり。

④ 都市の定本を定むる必要あり。是の内には
都市の定本を定むる必要あり。

都市。密居の高投資。人口密度の

拘束せし地域。非農的人心の集積地。

それ等のものは昭々たる都市の階級に認め

た。このように見れば、都市の存在が上層を

しなすものより、（に予備する、その後の）内容に食せらるゝとあり。

従来、（この都市の）都市の中心として、幾人かの名流は

都市を内しとし、（その中心は）都市の中心

活の中心とするところ、（その中心は）都市の一面は、

足るや、（その中心は）都市の中心として、

トの一例を考へて、都市を村落と同じ

系列上の生活共同体として、都市の

存在の法知性、（その中心は）都市の中心

空想

「都市は果敢社会の一種で、
お落より区別
されよ」

「果敢社会は果敢の基礎の上
に形成されよ」

「生活協同体とは或る人々
の協力を」

「この日常生活に於ける
欲求の満足」

「この人は協同体
の成員として」

都市の社会の統一と
果敢化について
考へた。お落の場合
について考へた。お落
の。

勝った者の生活の島

木は是れ都市地獄を天に望

如何に金せり牙埋り都市が城壁を攻
二片と下りてある木を知らず木をま

成立

和泉は

城壁は都市の要領である。先考へ二片たははか
りか、和泉の都市の概念は西州の都市に
吉原、東洋の都市に比せざるべき。互期待し
て大なり。和泉はしほく日本の近代都市

直村の課題

文にいつて行つた実証的調査研究にえつこ
こ考案してはよき有。
ここに城壁をとり出したのは考案にわけよの
暗平をまごんボウのまごんまごん

都市の記号の統一

2 城壁

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

日本... 文化... 都市... 城壁... 都市の記号の統一

人民を

◎として在る一絶た主義をも得の権威を
定むるに誇示せしめ威壓せしめしは是
極な秩序が其文化の中に在しと
たふありき。

★プリエエの諸君に見よ、教育の制は、街の
の権威を是れ、又ヒガニオんの云ふ共同生活
の終極なきを考へんと、古村の都市は、早稲
穀園的防衛的終極であつたから、たゞ
文化の存続を意図して、格下つた努力を
得ずの生活の中にも、苦ん下居たりある。

組織と

強に時ある有しと片ていふ、階層は非
階層化をたす、
階層化をたす、
階層化をたす、
階層化をたす、

この記号構造を強化し、
この記号構造を強化し、
この記号構造を強化し、
この記号構造を強化し、

強固の組織を
強固の組織を
強固の組織を
強固の組織を

かくて全体としての城内の人の生活は
社会構造による、
社会構造による、
社会構造による、
社会構造による、

① 強い戦局的障形をなして居る、
強い戦局的障形をなして居る、
強い戦局的障形をなして居る、
強い戦局的障形をなして居る、

この地を、
この地を、
この地を、
この地を、

① 市内に各都府を計画するに依り
 市制を訂定地域をもつて都市地域と
 するに依りたてておきよし P.89
 と云つて居るが今
 は細くある。

経 政 河の封建都市は第一期の形を二期の形
 形、その期域と市街と別々の図部

階層も何れも城壁の内から一歩引退く

はすなく城壁内に市街を築く

かくの如き場合、城壁内の人の社会的統一

を地圖の上の城壁の線に表すより、は

午後二時、（註）この社会の規模を城

壁の大小で表し、（註）この社会の規模を城

壁の大小で表し、（註）この社会の規模を城

壁の大小で表し、（註）この社会の規模を城

壁の大小で表し、（註）この社会の規模を城

壁の大小で表し、（註）この社会の規模を城

壁の大小で表し、（註）この社会の規模を城

壁の大小で表し、（註）この社会の規模を城

壁の大小で表し、（註）この社会の規模を城

△ 人が相集するに於いて其のほ少くとも共同防衛のみ
 には是れ由るべきであつたのから知れぬ。何れか一方の他は
 さかのぼりて居てあつたか否か。人同の協力や自然の
 害に對しては、野蠻の事象に對しては人は共同防衛を以て
 とし出で居り、人が相集するに於いては、然るに
 人の 集まるに於いては、人の外敵の
 前に協力するべきか。協力を以てするべきか。協力を
 他にしては、人の外敵の前に、今こそ一國の協力を
 して、此の統一でない場合に於いて、是れは特殊な歴史的
 理由は持つて居たか。人は是れを、是れを以て、
 他人の生活を身へたか。否か。人は是れを、
 何れかの原因に於いて、何れの原因に於いて、
 統一を以て、是れの下に、是れの下に、
 して居り、是れの下に、是れの下に、
 是れの下に、是れの下に、
 是れの下に、是れの下に、

城壁は都市の防衛を以てし、今こそ力を
 たつて居る。

共同防衛の存在を以てし、思ふに、人は都市は
 共同防衛の存在を以てし、思ふに、人は都市は

協力の
 協力の
 協力の

都市
 都市
 都市

農村
 農村
 農村

共同防衛の存在を以てし、思ふに、人は都市は
 共同防衛の存在を以てし、思ふに、人は都市は

人同の世界の集まりである。この様な意義は、
 本の中の都市には、共同防衛の存在を以てし、思ふに、人は都市は

△ 都市の
 共同防衛の存在を以てし、思ふに、人は都市は

人の密着に由来するもので合せて批判

都市の発展を達せし家屋形態に於ては
より先づ都市の回廊に於て(一九二六年六月号)

一つの集落の人はは共同の以て密着、共同の

利益を為り、場合は甚多し、
代程強く集落内に團結して外敵におもむき、
の返對の一端が鋭く執りし居る。故に余程
特殊の下界の事情なき限り一集落は一社会
としての結核したる事也。人は何れかの集落に在
るに、集落より居られた人の生活に於てのみならず、
人は皆集落を形成するに統一する生活を
形成するの必要ありと云ふべきあり。

意味するもの

3. 集落形態の空間的秩序

空間的に獨立した形態をもつて集落の

外形を呈して之を有するに於ては、
此は根據を有するに於ては、
既記の如く

的統一を予想するに於ては、
常液のなせるものなり

也。又、空間一般に於ては、
獨立した集落は一つの

社会的統一を呈するものなり、
社会的統一

之の社会的統一が、
此の規模に於て

いと、或るものは村落であり、
あるものは都市

である。常液としての都市の
概念のまわ

りたる内容は、
此の獨立形態が

今より居る。此概念に於ては、
都市は

其形態を、
図示すべし

空間的に

都市の夏落形態の種類

(木内 R258)

- 一、星雲形
- 一、集居形
- 一、ヒトテ形
- 一、街路形
- 一、不規則形

ヒトテ形は鬼形都市的都市的都市
故に高き、サレビス等あり

へとも見ると、打散居的と密居的に

よつといふた、打散居の相違を認め、小よ

とよ小大なる打散居に對して、社会生活

を以て手をつけ、打散居の

都市の夏落形態も地理学は定形、打散居ヒトテ形

都市の夏落形態、打散居を以て、打散居

人々の形を以て、打散居が、その相違を都市

の打散居構造といふ相違を来して、打散居が、

その打散居は、打散居に、打散居の

今、打散居は、打散居の、打散居の

打散居の、打散居の、打散居の

以上、打散居の、打散居の、打散居の

巨匠が夏落の、打散居の、打散居の

⑤
女系族と云ふ概念。地理学上は
従来水位位宋の別なく連想して
居る。宋屋の空間的独立の形態
を急務とするものなり。これを
云ふは同じである。

⑥
東京

の

空間的独立

東京は今日では住居の集會として

と云は解されつつ。水住居宋屋（おほい）と職業の

を造物と公共的造物がある。女

向御紙を造る都市は強いて云ふ住居の

中心として構成されてきた。是は住居が

同時に職場を有して居た。近代化と共に

住居の外に職場の発達があるが、（都市の中心）これは未だ

女傾向は愈々進んで居ると思ふ。住

居るはたまた勤め人の階級は愈々高たれ

又住居と職場との距離は愈々遠ざか

かくて職場の存する東京と住居の存する

東京が同一でない。通勤り道

① 近代人の生活は住居の中心で生活のすべてが宿屋を中心とする。宿屋は住居や公共的利用の外に色々の目的のみに使用される。②

③ 大都市のオフィス街を足ると都市は特急職場の中心となる。住居は四散して近郊に去る。④

近代都市の一つの要素となつて居る。都市

カワ中の人々と夜の人は如何に異なるか。

A系落は通勤する。B系落は住居を待つ

人はA系落の住宅に居る。⑤

B系落の住宅に居るとは、可なり。都市

に近接する。系落に居住あり。⑥

都市に通勤する者も、近接する。系落

に職場的な業務がある。都市

通勤する人々。⑦

近代人の生活は宿屋を中心とする。⑧

形態に過ぎず。住宅を待つ人は人の営み

ある。都市の周辺は境界線は何も無い

しかし、都市の外の

△
 連続宗屋形態を平野宗真に於ては
 正坊が存居るが已に未だ大阪調査の
 面以今の説は宗屋不存。

新しき都市世用

- 一 住宅
- 一 住宅兼職場
- 一 職場

連続す。宗屋相互の区画内の同一

この引のよきと云ふか、
 住宅の外に職場
 が分離して居る。近代都市では、
 大寺

集積の形態の相互に互外形を素直す
 のくや、復雑過ぎる存て云々

都市はその景観丈によしは判断しかたなく

考へるべき事



大寺

4 都市の外輪部

都市の外輪部、特に近代的大都市の外

輪部は其自作一つの大きな問題である。

也外輪部の或る部多には都市の発展生活を

の住居が群がり、又或る部多には橋への工場

施設が足らぬ。水道や瓦斯の便用

都市の人々と同様の便用が得られぬはかたは

重税や重汚や雑物の配達^{（二）}も都市心と

同様の便用を担て居る。市内の大才なる百貨店

の多量販賣区域に於ては、法制的に

製造物の設置^{（三）}の制限が都市心なす

あり。然しこの辺りなれば、真塔の外形も

斷続的となり、園藝、果樹の栽培は次第の
著多くなり、百姓の構へや耕作も有し、
一部分を切り取ると是れは^純農村に
もなり、又一部分を足れば都市の一流の交輔
を思はせよと云ふ高雅な高き也。

自佛車が盛んに用いられ、橋になつては、この
四世から都市の^路華術に通行せし甚く容
易である。是の如くこの世から都市へは、
輻輳に道路通ずる。是の如くは、
梨、梨、交際の爲に交通する事、甚く下す。

この世の人の生活は、都市の中心部の生活と殆
ど同一体となり、片は橋の如く、
と云ふ。

大阪の湖池に重率の対等の区画を
回るといふは、(都市計画の参考)

不可。然しこの区土地は本来都市より放
射線の格に外部に出る片は鉄道やバスやバ
ス中の一つの駅を中心に築居した郊外や街地
の区画に因りてある。それ等の交通路の駅、所
に^毎市街地を束下層にたした区画の格に
鉄道は五水水と水と。是れは中心の都市
から遠く離れた。いつかたわさくならぬ。鉄道の周りに
勤め人の住宅が出来る。鉄道が漸次大きくなり
るの周囲の住宅が増して行くにつれて、この小区域内に
自帯の生活には不逞しない一組の構図が出来て
行った。又それと中心の大都市が漸次増
大して行くと共に、此の区域も拡大する。既に

は外形的に中心の大都市と接連して来ると
も、形勢としては大都市と全く合併して
しまつて片も。けれどその区域内には日常生活
の用を定大する一級級の機関がある。如
何にもその区域内で独立した都市を形成し
て片も、極な自身自給的をしようとする
。カーンが云ふ Urban Community
と云ふのはかくの如き地区内の社会的統一
を意味して片もよつて片も。

都市の範囲内には旧市外の郊外市街地の
繁栄した様な区域を合んで居る。而かも
現在の郊外地には年毎に増えし都市の範囲

現在の都市の区域で、もう何十年何百年の
前には二つの或る種の田舎道を穿つた
ところであらう。

に、かほりしとして、片は都市として、教多し、
片は、^{都市}都市の外輪部を以て成長して行く
都市の姿が、よく看取され、都市は其外
形に於ては、漸へて成長し、発展して、
やがて、其外輪部は、漸く暫定的である。
此の外輪部は、毎に月毎に變化して、
あつて、ある。然し、はかくの如く、
多々都市外輪部の境を以て都市の
的統一の外形を求め、^{本来的}合理的な^{本来的}都市の
都市は、固守して、^{本来的}絶えず、^{本来的}流転、
して、^{本来的}片は、^{本来的}流転の最中、^{本来的}片は、
其外輪部として、都市として、

前近代の野田舎所には他地的な文化
かまらぬ形成され^{他地的な}意識や態度の共同の世界
かまらぬより。そしてその範囲内での相互
交渉の過程も存し、より自然村の
足々と同様である。然し近代化してより大都市
内ではその形を、果敢の他地的な基ついた係
験、共同の世界もなくなり、都市他者の存在
意識は、各々を相互交渉し、よりよくなる。
吾人は今からの如き近代化してより都市をも
親親の内に入れ、よりよくなる、よりよくなる、都市
一般には、社会意識の相互交渉は、必ずしも
存するとは一般には、必ずしも、^{感じ}よりよくなる、よりよくなる。

用の存する範域を異次元化するが、其素として

是れによつて都市の範域を其素に認識する方法

として一般に採用するは去來の事

以上の所から考へて來れば自然村と同様の事

此の自然都市と云ふ語を用ゐるは不合

理と云へなければならぬ。

然し本來自然村を考へるふふに云つた程では

住民の社会的結合の如何に物うが、行政的の

便宜上一定地域を劃して行政村が出来て

居る場合もある。そんなところには自然

な社会的結合は存しないが、これに對して

自然的な社会的結合の既に存する村落は

別に存して居る。かくの如き村落は行政村と
識別しなければならぬので、特に自然村と云
ふ文字を用いて自然的な社会的統一による村
落を意味したのである。村落と云ふ語は村を
その語と同様の用法、行政村と混同し易い
ので特に自然村と云ふ語を用いられた。

その如き言ひは都市に於いては
行政都市の外に何れかの意味で地域的存在
的統一の上に存する都市が存在するとして
自然都市と云つていふ訳である。此の意
識文にこのわけは存在は存したのである。

行政都市の
北海道の山形市は山村に入るといふ

之は、小樽市に漢林を合する所也
然し此は漢林の小樽にして此等の山林也
漢林を降つた云はは、本島の都市といひ
の島は法や小樽の都々を存して居よ。
この行政は都市はさかたれ少なき
本島の都市の世帯を禮儀的の周也地
区との二つの部分より成り立つて居よ。その
本島の都市は、至るべき部分に何れかの
部分に社会の統一を存する。
吾人が既に都市の内部の社会構造を論じ
たの以外、都市の構造を論じた。この論議者の
本島の都市の部分を意味して居たのである。

即ち、そこに社会構造の統一がなされる以上
この社会的統一が、多岐にわたるものとして
同一性はなく、むしろ社会構造の統一が、
多岐にわたる土地の上に、多岐にわたるものとして
ある。

吾人の都市社会構造論においては、都市を
構成する、基盤的集団は世帯である。即
ち世帯（地域的近代の）の上にある、地団集団と

世帯を多視す。職域集団との交代過程
の、都市の近代化は、世帯も
職場も土地も固定して、多岐にわたる
ものを地上に投影して、多岐にわたる

ない。前近代の都市は職場も
住居も分離するのではなく、都市には単純な
住居のみよって出来たので、都市の範囲も
町界の地上に表すのみであつた。然し
近代化の著しい都市に於ては職場の住居の
外に大規模の公園や緑地を設け、これに
地区集団を形成し、これを核に都市の
地域性は甚しく混然して来た。近代化の
初期には住居も職場の中心地を決定してか
後には職場の住居を決定するに至つた。
都市は住居によるものとするのか、職場
によるものとするのか。これは大きな問題であ

① この種同様な多岐に亘り生活に深刻な

影響を及ぼす(一) 都市のみにては Common interest

としての市民の結合する多岐の種

をを并へしことよ。故に税代都市にお

いては行政都市の形態や機能も免れ

ず、可なり著しき事である。又は此

に在る如くサビスを受けておる行政

都市内の山村や農村の人々は中央

政府の市民とは異なる生活態度を

持つて居る。ゆえに中央部の市民は行

政都市の山村の人口は我々と異なり

居る。

都市内の山村や農村はこれを異性の

市民として扱外的事象として無視してよ

い。のわし知れぬ、如し行政都市の外に本

市の都市が存する事とその本質の部
市が何であるかを明かにし得る。此
は田舎の市民も一度同じいさしめ
水はた、行政都市の如く都市を
考へた、そのまゝのまゝの人は別になら
ずある。△

。此の同じ生活を妨げし者として考へる。

都市は元來都市生活に於ける秩序

の維持の爲に對し行政的機關の統制を必要

とし居る。されば此の都市生活一はもと混亂

の爲に存続するものはあるべきである。

の都市の自治的行政機關の持つべき権限

の目的の如何に大規模な方面に亘るべき

考へて置よ。都市生活は水道や電氣や電

車等の清掃の手段の整備の清潔の維持

の文化の行政の行政のその他存する事

同じ事、都市の不断のサビスを受ける事

市民が受けるべき事、共同のサビスに

①

△ 何としてこの本来の都市が...のは

物...に存して...。それは果して...か。

此...を...都市は...の

本来の都市の...。...を...

...の...に...

「工業化の... 工場... 住宅... 知...
...を...」

木内氏 P.80

木内氏 P.74 には人口... 藤子人

都市の... 都市と... の...
... 他都市... の...
... 人の生活...
... 以外... から...

文化
6. 職業... の偏り

都市の職業... は既に都市の外部的

... 構造... 意の... を...

... 一人... 都市の... 職

... 警察... 軍人... の

... 官公吏... 教育者... の

... 職業は... 人... 職

... 物を... 工業... 漢

... 業... 田... の

... 人... 職業... 都市に

... 都市は... の

... から... の

農村は自然経済的生業を以て
都市は交易的生業を以て

都市は交易的生業を以て
農村は自然経済的生業を以て
都市は交易的生業を以て
農村は自然経済的生業を以て
都市は交易的生業を以て
農村は自然経済的生業を以て

人と半牛の宗教家、医者、旅館、
代書人も乞食も無業者も
料理屋も悉く都市に集まると
物と半牛の職業の人、此の職業の
由業

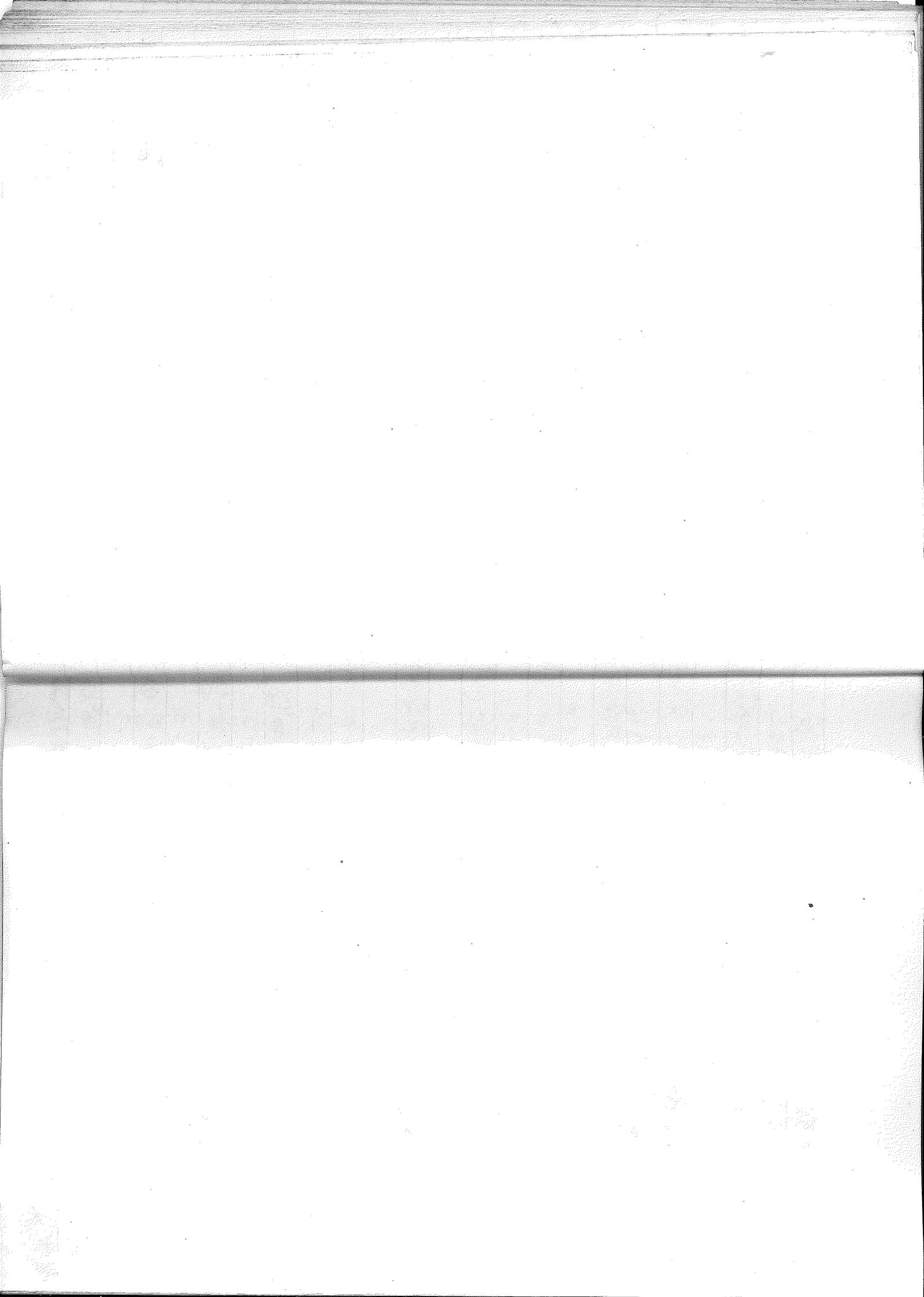
都市に住まふか許すか
一定の土地に
困窮する人
農業者

農業者
農村の外に住む人
農業者

農村のため、農民は市場のため
農民は農村のため、農民は市場のため
農民は農村のため、農民は市場のため
農民は農村のため、農民は市場のため

工業も強と皆都市に集ま
材料の運搬、貯蔵、運搬、労働力
の供給のため、都市は市場のため、農民は市場のため

都市は市場のため、農民は市場のため
都市は市場のため、農民は市場のため
都市は市場のため、農民は市場のため
都市は市場のため、農民は市場のため



工業とは都市は成長した。工業は土地に定
着すべしは他の産業は主として附かぬ。生じ
て来よ。工業は主として小は主として工場。これ
は都市ではな。生産は主として消費が伴ふ。
消費者の力の積へは都市は主として工業。
大なる生産は主として消費は伴ふ。これ
である。この
都市は大なる生産を主とする。消費は主として
工業である。
金口は生産の場所が都市に集まる。これ
は主として工業。人々の消費の場所は都市
に集まる。これである。大なる
故に人は消費は主として都市の住民
である。

都市の職業には主として都市住民の生活に
関係する。又住民の生活
以上は主として消費である。これは主として
都市下の消費である。これは主として
住民の消費である。これは主として
か。又主として消費である。これは主として
地方の住民の消費である。これは主として
主として消費である。これは主として

この場合は主として主として
有る。この場合は主として
この場合は主として
工業が都市が主として
他は主として
近代化と共に巨大な集団行動
とて、近代人の合理的は巨大な集団行動
とて、近代人は主として都市や交通路を基
として工業立地を考へた。近代の巨大な集団行動
合理的な立場に工業を起し人為的に都市を

交通路を基として都市を起し人為的に都市を
合理的な立場に工業を起し人為的に都市を
合理的な立場に工業を起し人為的に都市を
合理的な立場に工業を起し人為的に都市を

1 結 節 都 市
工 業 資 源 都 市
三 衛 口 気 都 市

大 都 市 の 都 市
位 外 の 都 市
三 衛 口 気 都 市

工 業 資 源 都 市

である。若くは北海道に於ては計画都

市は云はば国都都市である。中世都市と

いふより又政治都市といふより、また計画都

市は何れも為政者の都市であるが、近代化

に伴つて是より計画都市は工業を基幹とし

企業家の計畫都市である。(註)

都市は云はば人を都市とする職工人

口を合んで介するものである。物を相手と

する職工人はこれ土地との好別を図る者

同族がなほ以上皆都市に集まるのである。

職業上の便宜からして都市に集まるが、

生活の便渥、安易、や各業の心や教育の

① 市境に

職者の園地をへて思ひあふすは

都市の人々は皆他の人々をしのび生

しむる一人の振下りともよすてあ

都市の人には互格に同様に相互に信

念の園地をその生存在の基礎にもして

格下り。市境ありてあ

農業者人の住居と北界ある人の住居

この子の線、又は農耕地と建設地と

子の線によつて農耕地都市の境を

は政治上一層可能なる

は、その間の間にを居るに於て、農業者は

に、その間に都市位にたつたが、高層を

あるが故に、その間に持たせ住居をた

本来的に、その間に持たせ住居をた

その都市の周囲地をその間に持たせ

まよ。市境に於ける市民生活の、漢十牧

職下り。職者生活の、職者生活

その存在や園地を其の間に持たせ

都市の職者は其の場外の他の一部の

職業と其の外にないが、それは強て年表に近

いれらるゝ。市境に於ける市民生活の、漢十牧

都市を定として居る。職業に於ける都市

の職業をへては強て年表に近

の職業の税は本無税と云ふ大なる、人は

職業の間に都市に集まつて居るばかりなく生活

の字や税の爲か、都市に居住する人少く

たつた。市境に於ける市民生活の、漢十牧

不在地主は不在地主も都市位

「^{たて}新築は坪百のり、次に都市的利用
の場を求められ^て、^{たて}新築にたては都市
部一月以上、中野地帯一月以上、周囲
低地帯五月以上が大作の目撃すに^なす」

本内 P.69

文化構成物として^の地価

7. 地価に及ぶ都市の範囲

人の経済的評価は最も確實なる実の量
と較べて、その地価が多い。地価は土地の経済
的利用価値に依りて評価され、土地の環
境的利用価値は都市の中心部に於いて最も
高く、その周辺に至るに従って低いものと思は
れる。都市は人の往来が最も盛んで、故に商
業活動の最も盛んなところであるから、土地の
利用価値は最も高く高い。この考えは、都市
都市は人の往来の最も盛んで、故に商業が最も
盛んで、その周辺に至るに従って低いものと思は
れる。都市は人の往来が最も盛んで、故に商
業活動の最も盛んなところであるから、土地の
利用価値は最も高く高い。この考えは、都市

本経験して来た事へてある。さては商店街

の扶養の都市と解されて居る。都市の成り

は商店街が島の核に點在して居る。地價

の高いのと云ふは商店街に應じて居る。

都心（島の都市成り）と云ふは島の核に點在して居る。地價

の高いのと云ふは商店街に應じて居る。

地價は低くなつたが商店街があるところには又

高くなる。然し全般には周辺に及べば地價

は低くなり、又此の外周に及べば農耕地

となる。都市の地價が下つて農耕地の地價

と相接する環状線が考へられた。地價は

線の内部は宅地となつて居るとして、

都市より連続して居る。

この地は比叡北線の内部を一般に人の
評定して此の都市を足らしはるゝはなる。

余は此考へを肯定す。に是を在調和を遂げ
を有し居る。只札幌市に於て試可大調

査のよきは、都五心より外周に至るに於て

地價は漸減の傾向を示すが、右の環状線即

ち旧新地としての地價に接するところでは、

漸くつきり、此都市的地價は農耕地の地價より

も低くたつて、即ち環状線の内側

の地價上の一線の断面が、即ち出まへりより五

分の二水は札幌市の周辺に於いては、後環

線より知れぬが、また他の都市に於いては

経済として

都市的地価区域内においては

人の知能、人の国の富が競争に
起るより先、水より先、土地の地価を
在るより先、土地の地価の差を
在るより先、土地の地価の差を

の調査と研究の必要あり

地価の同定を考へ、その地価も
可成り人知れぬものあり、人の富
が地価を決定する。これら都市の人の
相互に在る関係の一面を研究する。

△古今東西の都市は一見して其の性質を攷るは
 都市が密居の共同生活体であるとする
 事である。又この政治的統一性下にある事である。
 都市を村落の集りであるとする事は、
 正しいが、此である事は都市も村落も共に同様の
 社会であるとする事は、
 正しくない。村落も村落として、
 都市も都市として、
 社会生活の統一性がある事である。
 上の差違は完全には異なる事である。

人口密度の統計 木内氏 P.94

政治的統一性(都市)に於ける
 共同生活体としての都市

人口密度の生活体としての都市

都市の住民は明らかにかつ密居して居る。都市を
 人口稠密度の高いたるところと云ふも同様の義である。
 而して、
 村落に於ける生活共同体を形成して居る。
 生活に於ける消費に於ける同じ都市内の他の
 人々との社会関係を過して生活して居る。生活
 共同性として認められる事である。△
 密居して生活共同性を形成せよとするには都市
 の特性を見出さなくてはならぬ。考へかゝる政治的な
 考察である。村落も農村では密居不足の
 事がある。明らかにかつ都市は甚だしく密居的である。
 然るに都市の密居的共同生活には是れ

所有の生活の型は多岐に亘る。それは自由である。

所有の社会的態度、所有の所有の型、所有の

道徳律、不潔癖の密居生活の甲か、自

ら成るまである。それは容易に想像される

ものである。それ等のものは他の條件からなる

密居をとおる実の才から珍集される

物と別々である。それは人は能力をも

つとめる。都心の住民に於ては、

のる犯罪や精神病や自殺等の現象が

起るやすすくなくとも、それは

たものには存い。密居して居る者も

と生れ、所有の人同様に多岐に亘る。

とある。それは単純に具象化する。そのさま
よいものであると山をへた。都市より連続
して片々一群の集落が、相互に距った道
音路に附いて。一軒家の人々の生活が、都心
のオフィスに職功を付す。その場、おおい おおい 然り教養
都市の内部に相まきゆく。機同に絶えず
同位を保ち、暮らさるる衣食の用も都市内の
高層に依存し、都市内に多くの友人知人
を打ち並ねる人々を往来せし終い。この
活は、ゆかに都市内に住む人々の同位
中に行はれ、片々としたなほ、おおい おおい かつの如き
うゆは、東京の近郊にせよ、なほ、

よか、彼の都市への社会的側面は題より
はかまらぬ。然し彼が都市の側面として
を体系的に表す事は不可能に違ひ。彼の
都市への側面はむしろ生活の側面であり
心の側面でありかゝらぬ。

密集と云ふ事は都市の特性の一つとは必
ずかん思われぬ。この特性による都市の
限界を決定し、たゞ税制を特性とは有
へし小なり。

都市は一つの集落文化であらう。この生活共同
体である。市民の都市への側面は民生生活共同
体への側面に外ならぬ。それは全く社会的な

図例である。

社会生活共同体は涼の如きものと云ふこと。

生活のありし中よりなりし相協力しり常の生活に

必要を物質、知識、娯楽、教養をその内を伴ひ

片々移住人々の一團である。

社会生活共同体は時局を要するものは自衛生

活に必要なる生活の資料や知識や娯楽や教

養を必要とし、^{その}社会生活共同体に属する人々との

交渉によることなしに片々移住人々の一團である。

社会生活。めんじやる対人的な交渉するに専ら

とし、その社会生活共同体の人々を養ひて居ることを

するである。その所為の^{社会}共同体や定型的な社会共同体

おまの生活同僚に成す人々とも同に
結ばれし片よあとりかてあり。初してそれ其の
社会集團や文化同僚は本来心のより密なる
より、それを客観的に表示しけりともあり
たり。然し此のれよりかはるしかり
なる。都市住民の成す集團や文化同僚
は昔より多く其の世帯が職均か根をた
りして片よとるなり。